

木造住宅の耐震診断精密診断法 1 報告書

多湖 章邸 耐震診断

報告年月日 令和 7 年 5 月 31 日
調査年月日 令和 7 年 5 月 27 日

- * 本診断は、「木造住宅の耐震診断と補強方法（改訂版）」，一般財団法人日本建築防災協会発行の「精密診断法 1（保有耐力診断法）」に準拠しています。
- * この耐震判定は，現行の建築基準法上の耐震性能を満たしているかどうかの目安を示すものであり，地震による被害を受けないことを保証するものではありません。
- * 診断評点が 1.0 以上の場合でも部分的な欠陥がある場合には，その程度に応じた対策を講じる必要があります。

1 級建築士 ● ● ● ●

判定

この住宅は、建築基準法の想定する大地震で、

(倒壊する可能性が高い)

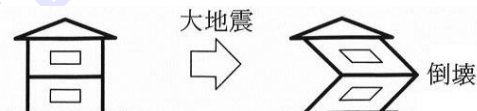
その階と方向は、
(1) 階 (Y) 方向、
(2) 階 (Y) 方向、と考えられる。

評点

	X 方向	Y 方向
2 階	0.93	0.52 ※
1 階	1.39	0.61

(※印は最低値を示す)

上部構造評点	判 定
1.5 以上	倒壊しない
1.0 以上～1.5 未満	一応倒壊しない
0.7 以上～1.0 未満	倒壊する可能性がある
0.7 未満	倒壊する可能性が高い



総合所見

<地盤>

○良い・普通

基礎の状態、周辺状態及び経過年数からして、ほぼ新築時の状態を保っており、良い地盤とみることができます。

<基礎>

不同沈下も無く、基礎として安定しています。

<建物形状、壁配置・壁量>

平面が不整形です。地震時には建物の場所により揺れの大きさが違うため、入り隅部分に集中的な力がかかり建物に被害が想定されます。

建物の壁量が極端に不足しています。地震時には倒壊する恐れがあります。

<老朽>

外壁モルタルに交錯した深いひび割れや脱落等が見られます。老朽の進んだ箇所は、雨により外周面の柱・土台に腐れが生じ、地震時の揺れに軸組が耐えられない状況も想定されます。

○床下部分

床下部分の足固め、根がらみ等が不十分です。大地震時に床が陥没したり、波打ったりする可能性があります。

○構造耐力上主要な軸組等

2階外壁の直下に壁が不足しています。地震時に上部の荷重が受梁に集中するため、1階部分の崩壊が想定されます。

○継手、仕口

柱・土台・筋かいの仕口の緊結が悪いため、地震時には建物全体の揺れを基礎まで伝えることができず、建物の傾斜や倒壊が想定されます。

最低上部構造評点が0.52なので倒壊する可能性が高いと判定します。